

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2011～2012年度 国際ロータリー Kalyan Banerjee (カルヤン・パネルジー) 会長テーマ

Reach within to Embrace Humanity こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

創立 1954年3月8日

承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 杉浦世志朗
幹事 市川裕大
会報委員長 吉岡秀記

第2729回例会プログラム

[当年度 = 5回目; 当月 = 4週目]

2011年(平成23年)8月22日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 幹事報告
9. 出席報告
10. 委員会報告
11. ニコニコボックス報告
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(8/29) ……
クラブフォーラム(会員増強委員会)
卓話「会員増強について」
講師 クラブ会員増強委員長
加藤 繁則 会員

- (9/5) ……
卓話
講師 刈谷北高等学校
校長 都築 春彦 様
(紹介者 横山 宜幸 会員)

- 13:00 13. 本日のプログラム
新入会員アワー
室殿 豊 会員
白坂 修二 会員

14. 謝辞
15. 点鐘……〈会長〉
16. 閉会宣言

- 13:30 17. 散会

出席

会員総数 90名 出席免除 27名
出席義務者+免除者の内例会出席者 83名
欠席 6名 出席率 92.77%
前々回(7/25)の修正出席率 100%

会長報告

- 1) この度、野村重彦会員がロータリー財団の二度目の大口寄付者になられ、認証のクリスタルが届きました。



- 2) 竹内一郎会員が、ロンドン郊外のリッチモンドRCにて、バナー交換をされました。

幹事報告

- 1) 地区ガバナー事務所より「第6回こころフェア」開催のご案内が来ました。ご覧下さい。
2) 本年度、第5週のRCソングとして「四つのテスト」を歌います。次週が、本年度最初の第5週となります。お食事中に流ささせて頂きます。
3) 本日、例会終了後理事会を開催致します。関係の方々は事務局へお集り下さい。

花火の歴史

杉浦世志朗



紀元前3世紀の中国の爆竹が使用されたのが起源だという説もあるが、最も初期の花火は、6世紀中国で火薬を使ったロケット花火だと言われている。敵陣に打ち込んで火事を起こしたり相手を威嚇したりといった武器として使用されたようです。

ヨーロッパに伝わったのは13世紀以降で主に王侯貴族が権力を誇示するために王が催すイベントなどで使用され、打ち上げ花火はイタリアで開発されたという説もある。

16世紀になるとイギリスで花火の技術が大きく進歩し、1532年、ヘンリー8世は優秀な花火師を集め戴冠式や王室の結婚式などでテムズ川で水上花火を楽しんだという記録がある。17世紀になるとポーランドやスウェーデン、デンマークなどにも花火学校が設立され、イギリスのジェームズ1世はデンマークから優秀な花火師を招聘し、娘エリザベスの結婚式を花火で盛大に祝ったと記されている。

一方日本では

16世紀(1582年)ポルトガル人の宣教師が伝えたといわれ、初物好きの織田信長が安土城で祝賀行事として披露したそうである。その後徳川家康の時代になると駿府城内で時々外国人による花火の宴が行われたという記述が残されている。

江戸時代になり戦がなくなると、花火を専門に扱う火薬屋が登場し、最も古い花火業者が宗家鍵屋であり初代弥兵衛はまさに人気絶頂、時の人でありました。

その後、鍵屋の手代であった清吉が暖簾分けし、市兵衛と改名の上、「鍵屋」と同じ両国に「玉屋」の屋号で店を構えました。

当時、江戸で花火は大変な人気があり、鍵屋、玉屋の二代花火師の時代が続きます。特に両国の川開きは、両国橋を挟んで上流を玉屋、下流を鍵屋が受け持つようになり、花火を競っていました。浮世絵にも「鍵屋」「玉屋」の声をかけあう風情が多く描かれています。

この両国大川(隅田川のこた)の水神祭り献上花火が現在の隅田川川開き花火の起源だと言われています。

当時は玉屋の人气が鍵屋をしのいでいたようですが、1843年(天保14年)4月17日、玉屋から失火、店のみならず半町(1500坪)ほどの町並みを焼失と騒動があり当時失火は重罪のため、財産は没収、市兵衛は江戸追放となり、僅か一代で家名断絶となってしまった。

花火に関しては特に江戸での記録が多く残っているが、愛知でも江戸時代から花火が作られていた。三河国岡崎は徳川家康の出身地ということで火薬に関する規制が緩やかであり江戸時代から競って花火を製造していた。現在も岡崎周辺に花火問屋が多いのはこの名残である。こ

れ以外、現在、花火の主な産地は長野県、新潟県、秋田県、茨城県で徳川家のゆかりのある地方が多い。

明治時代になると、海外から多くの薬品が輸入され、それまで出せなかった色を出すことが出来るようになったばかりか、明るさも形も、日本の花火は大きく変化した。しかし新たな薬品によって多彩な色彩を持つ鮮やかな花火が誕生した反面、化学薬品に対する知識不足から相当な事故が発生したのも明治時代である。この時代名だたる花火師が総力をあげて打ち上げた歴史に残る花火が、1889年2月11日の大日本帝国憲法発布の祝賀行事で、二重橋から打ち上げたものである。

新入会員アワー

我がふるさと コロンバス

室殿 豊 会員



私の居たインディアナ州コロンバス市は、日系企業が多くあり、そのため日本人も多く、愛知県のみよし市が姉妹都市で、毎年相互に交流訪問し、みよし市の事務所も市内にあります。

町の風景も、春はサクラとハナミズキ、秋はいちょう、クリスマスは家々に飾られる電飾で美しい情緒あふれる風景が楽しめました。四季を通じて色々な催し物があります。特に、秋のエスニックエキスポはコロンバス在住の外国人たちが、母国料理を振舞う出店や各国の文化を紹介するイベントで、去年は22ヶ国が参加しています。

10月末のハロウィーンパーティはケルト人の民族行事が起源で、夕方になると仮装した子供たちが、近くの家を訪ねてきて、「Trick or Treat」と唱え、受け手の家は「Happy! Halloween」と応えて、お菓子や小遣いを渡すことになっています。

アメリカには多くの社会貢献団体がありますが、United Wayは最大規模の寄付金を集める組織で、個人が寄付した金額と同額を会社も拠出して寄付するCompany Match-upというやりかたを取っています。ロータリーファウンデーションは、寄付総額の8割がアメリカ以外の地域で、ロータリーがいかに世界規模、多くの国での活動の拡がりを持っているかを示していると思います。

現地での生活で感じたアメリカのすばらしさは、多民族国家ならではの懐の深さ、外国人を温かく受け入れる雰囲気・条件が整っていること。個人寄付はもとより、汗をかくボランティア活動にも熱心で、助け合いの精神・社会貢献意識の高さを感じました。

新入会員アワー

『四国遍路旅への決意』

白坂 修二 会員



私は、昨年の12月6日に当クラブへ入会させて頂いた際に申し上げたと思いますが、昭和60年に弊社に入社致しました。在籍25年となりますが、よくここまで持ち堪えているなと自分でも不思議に思っております。当時日経平均で13,113.32円また為替がプラザ合意の年でございましたので、年初の1ドル250円から年末200円と大きく円高、ドル安へと転換を迎えた年でありました。この刈谷支店で14店舗目となりますが、唯一この会社へ感謝しますのは、転勤により色々な地域に行かせてもらっていることでもあります。東は、東北の仙台から西は四国高松であります。仙台的3年間と四国高松の2年間は、非常に印象深いものであります。仙台支店の時には、エリアが東北6県ということもあり、春になれば桜前線とともに福島、宮城、山形、岩手、秋田、青森の順に出張の予定が入り、夏には祭りにあわせて出張先が組まれるという具合でした。そして唯一、家族と移り住んだ四国高松ですが、私の将来の夢、決意をかもし出してくれた土地であります。くどいようですが平成12年ですので日経平均終値で13,785.69円為替が115円くらいでした。四国には、他に松山、高知と支店がありますが営業上の都合で高知の室戸岬（車で往復7時間）とか徳島の阿南市（四国の一番東側）などまでも足を運ぶ機会がありました。そういった時にどうしても私の目に止まる光景が、白装束の姿をしたお遍路さんでした。背を曲げた老婆が一心不乱となって歩く姿とか、全身に汗を浴びながら無言で歩き続ける高齢の男性の方々などさまざまではありましたが、何か心を惹きつけられるものを感じました。一度、ちょっとした茶店で話を伺う機会を得「何がそうさせるのですか？」とお聞きしたことがあります。今考えれば失礼な事を言ったものだなと思いますが、その方は「次なる目標が目の前に見えているから（歩ける）ですよ！」とおっしゃいました。まさに目から鱗です。これまでの自分の生き方を振り返り、将来的な具体的な目標を掲げることもなくただ、日々のことに埋没している自分がいるような気がしました。その時から、自分のものの考え方や生き方が別段変わった訳ではないのですが、単純な私の事、その偉業を将来自分の足で成し得ようと決意に変わったのであります。実際にその高松にいました2年間に実行した訳ではありませんが、そのお遍路の旅について私の知り得た範囲でお話しをさせて頂きたいと思っております。なかにはもう経験されている方もいらっしゃると思っております。また、こちらの三河、知多半島あたりでも、お遍路路があるとお聞きしております。重複することもあると思っておりますが、ご容赦頂きたいと思っております。

第3回理事会

- I 会長挨拶 〈会長〉
- II 議題
 - 1. 9・10月のプログラム（案）について
 - 〈クラブ奉仕委員長〉
 - 〈プログラム委員長〉
 - 2. ガバナー補佐訪問について 〈幹事〉
 - 3. ガバナー公式訪問について 〈幹事〉
 - 4. 刈谷市スカウト育成連絡協議会活動助成金について 〈新世代奉仕委員長〉
 - 5. ロータリークラブ杯小学5年生サッカー大会協賛について 〈新世代奉仕委員長〉
 - 6. その他
東日本震災復興基金について